

【スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを見学！】

スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを見学！

2017年12月9日（土）
 ブラボーグループのチャリティチームで、
 スペシャルオリンピックス日本（以下、SON）の
 活動を見学してきました。



皆さんは、知的障害がある方がスポーツすると聞いて、
 どんな場面を想像されるでしょうか？



とても失礼な話ですが、私は見学に行く前

「きっと皆で和気あいあいと、スポーツを楽しんでいるのだろうな。そこまでうまくなくても、楽しむことが重要！」
 と、勝手に“レクリエーション的なスポーツ”を想像していました。今思えば、本当に失礼な話です。

なにせ、私たちの目の前に広がった光景は全く違ったものだったのです！

早速、取材班が実際に目で見て肌で感じた“スペシャルオリンピックスのスポーツプログラム”をお伝えしたいと思います。

年齢問わず愛されるボウリング！メンバーのアベレージスコアに驚愕！

まず、私たちはSON・東京が開催する
 ボウリングのスポーツプログラムを見学するため荻窪に。

会場では、ボランティアの浜井さんいろいろなとお話しを伺うことができました。

その日の参加者はおよそ30名前後。ボウリングはSON・東京の中でも人気が高く、
 都内に7会場・それぞれに40名前後の登録者がいるんだとか。

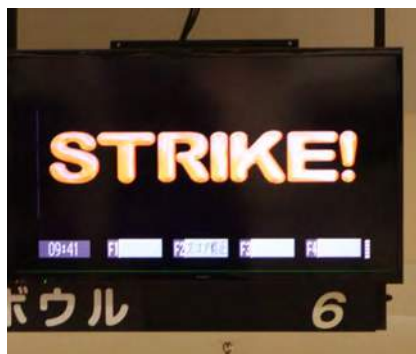
人気の理由を浜井さんにお伺いすると、

「ボウリングはスペシャルオリンピックスでも最初にスタートしたスポーツです。
 ルールも体の使い方もシンプルなので、年齢や性別を問わないということが好まれているのだと思いますよ。」
 とのこと。

確かに見渡してみると、中学生くらいからご年配まで年齢は様々。
 世代や性別を超え練習に励んでいるのですが、
 何より取材班を驚かせたのはレベルの高さ！

浜井さんがおっしゃるには、参加メンバーの平均スコアは年々
 上がり、なんと今はアベレージ200超えが当たり前なんだそう。

私たちが見学している間も、幾度となくストライクやスペアの
 マークが画面に叩き出され、まさに圧巻！



参加者同士が好プレーに対してハイタッチで称えあう姿は、
普段ボウリング場で見える風景となんら変わらず、見ているこっちまでやりたくなってしまうくらいです。
(到底太刀打ちはできませんが・苦笑)



今回案内をしてくださった浜井さんの娘さんも障害を持っており、
普段は SON・東京でトレーニングに参加するそうです。

当時、自閉症でコミュニケーションを取ることが難しかったという
娘さんですが、スポーツは娘さんにとって、外に出て周りと一緒に
行動するきっかけに。

その結果、娘さんはボウリングをやる傍ら浜井さんの影響で始めた
スキーで代表選手に選ばれるほどの実力になりました！

今ではすっかり娘さんの方がスキーも上達してしまったと笑う浜井さんの笑顔が、
とっても優しく嬉しそうだったのが印象的です。

驚愕のハイスコアを目の当たりにし、興奮冷めやらぬまま向かった次のバスケの会場。
そこには、自分の偏見を打ち砕くような姿がありました。

青春時代の部活へタイムスリップ！地元ボランティアのバスケ経験者指導でより上を目指す！

続いて私たちは場所を移動し、
バスケのプログラムを見学するため東京都国立市の体育館へ。
こちらでも、ボランティアの三上さんがチームを見ながらいろいろとお話を
聞かせてくださいました。

その日の参加者は、アスリートとボランティア含めおよそ 30 名。
開始早々大きな円陣を組み（私たちも参加させてもらいました）
大きな掛け声でスタート！



ランニングから始まり、準備体操⇒フットワーク⇒レベル分けしてグループ練習⇒ミニゲームと、完全に“部活！”を彷彿と
させる内容に、取材をしている私たちも青春がよみがえってくる感覚にワクワク（笑）

参加者を見ると、ボウリングに比べて平均年齢は大分若い印象。早速、三上さんにお伺いすると、



「(参加者の年齢で) 下は小学生から上は 40 代までいます。比較的多い
のは、高校を卒業したばかりの 20 才前後ですね。学校卒業すると、運
動できる場所が無くなっちゃうので。」

そんな若い人たちの相手なんかしたら、ふらふらになってしまうのでは
と自分に置き換えて心配しながら見ていたのですが、指導をするボラン
ティアの方々のパワフル！

お伺いすると、バスケ経験者のみなさんがボランティアで集まり指導を
してくれているのだとか。

障害を持っているからと参加者を特別扱いするわけではなく、上級者になるとその指導にも熱が入り時には檄が飛ぶことも。

そこには“強くなりたい”“うまくなりたい”という参加者のシンプルな思いと、それに応えようとするボランティアの方たちの姿がありました。

ボウリングに引き続き、そんなやり取りを見ているうちに、自分の中の「障害者のスポーツは特別なもの」という偏見が一気に打ち碎かれることに。

気づけば、彼らの一歩も譲らぬ大迫力なゲーム展開を目の当たりにし、高校時代の部活のように大きな声を出して応援している自分がそこにいたのです。

真剣な姿勢を実際に目にしたことで、自然と心が動かされたスペシャルオリンピックスのスポーツプログラム取材。彼らがここまで真摯にスポーツに向き合い努力する先にあるのは、スペシャルオリンピックスが用意する大きな目標でした。



そしてその目標の裏には、スペシャルオリンピックスが掲げる“根底のテーマ”があるのです。

アスリートたちの大きな指標！スペシャルオリンピックスが掲げる“全員表彰”の思い

SONでは日々行っているトレーニングの成果発表の場として、4年に一度ナショナルゲーム（全国大会）を開催しています。さらに選考された選手たちは、日本選手団として世界大会に出場することができます。

まるでオリンピックやパラリンピックのように感じられるかもしれませんが、スペシャルオリンピックスが用意するこの大きな目標には、根底にあるテーマ“全員表彰”という特徴があります。

全員表彰とは、スペシャルオリンピックスが用意するトレーニングや大会に参加する全ての人を表彰するというもの。

参加するアスリートたちは、障害のレベルや種類によって、参加すること・やり遂げることが目的の場合もあれば、「勝ちたい！」という気持ちを持って試合に挑むアスリートもいます。



(写真提供：スペシャルオリンピックス日本)

バスケットを選択したとしても、団体競技が困難な場合はドリブルやシュートで自分自身の記録更新に挑みます。ナショナルゲームに出られなくても、日々のトレーニングで努力している人だって全国にはたくさんいるのです。

そんな全ての人たちの努力を称え、求める目標に向かうサポートするのがスペシャルオリンピックスの姿勢なのです。

目標はこちら側が指定するものではなく、一人一人違って当たり前。

スペシャルオリンピックスが掲げる根底のテーマは、アスリートのみならずご家族にも勇気や希望を与えているようでした。しかし、そんな素敵な思いを持つSONも大きな問題を抱えているのです。

まだまだ人手不足！ファミリーボランティアで支えているのが SON の現状

SON・東京ではアスリートだけでなく、
家族の方もスポーツプログラムに積極的に参加していただくよう声掛けをしているそうです。

今回お話を聞かせていただいた浜井さんや三上さんも、最初は家族としての付き添いから参加して、そのままボランティアとして活動する“ファミリーボランティア”と呼ばれる人たち。
SONの活動は、ほぼファミリーボランティアが支えているといっても過言ではありません。
まだ知名度が低いこともあり、純粋なボランティアさんが少ないそうです。

普段から人手が足りていない状況なうえ、2018年、2019年と大きな大会が控えていることもあり、
どちらの会場でも一人でも多くの協力が欲しいという声が聞かれました。

まとめ

今回の取材を通し、それまでに頭で理解していたことと、自分の目で見たものの温度差は想像以上のものでした。
とてもハイレベルな中でスポーツに向かうアスリートたちは、障害があるとかないとかという問題ではなく、
私たちと何も変わらない感情で練習に励んでいたのです。

またアスリートを見守るご家族同士にも交流があり、会話が弾んで常に笑顔が溢れている場面を見ると、
いかにこの場が大切なものであるのかがうかがえました。

スポーツが多くの人々の心と身体を健康に豊かにしているということを、改めて実感。

また、スペシャルオリンピックスのボランティアには

- ・寄付をする人
- ・一緒にスポーツする人
- ・スポーツの指導をする人
- ・スポーツできる場所を提供する人
- ・スポーツ用品やウェアなど物資のサポートをする人



など、様々な形での関わり方があることを知り、選択肢が増えチャリティ自体のハードルがかなり下がったように思います。

最初からボランティアに行くのは勇気があることかもしれませんが、まずはこれを機に SON の存在を知り興味を持ち、
そして一度スポーツプログラムの見学に行ってみてください。

もしかしたらあなたの中でも、【MOVE NOW!】で掲げるスローガンのような感情が生まれるかもしれません。

【MOVE NOW!】というスローガンを元に、Bravo Group では様々なチャリティ活動を行なっています。

1. 「Move（動くこと）で、人々の心身の健康に役立ちたい。」
 2. 「些細な MOVE（行動）でも、“今” 行動を起こしてみよう。」
 3. 「このチャリティ活動を通じて、人の心があたたかくなるように・・・」
- ※MOVE には「人の心を動かす」という意味があります。